

軽度認知障害の検出と 介護予防

らぽーる新潟 ゆきよしクリニック
訪問リハビリテーション
言語聴覚士 山崎 美穂

Mild Cognitive Impairment (MCI)

軽度認知障害

- アルツハイマー病（AD）の前駆段階
- 年間 10 ～ 15 % の割合で認知症へ移行
- MCI を含む初期 AD において、初期症状である軽度近時記憶障害を検出することは早期診断をする上で重要

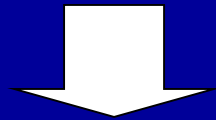
MCI を含む初期 AD の特徴

1. 本人または家族からの物忘れの訴え
2. 日常生活上問題なし
3. Mini-Mental State Examination 日本語版 (MMSE)
改訂長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)
の成績は正常
4. 正常高齢者に比較し記憶の低下

近時記憶障害 ⇒ 遅延再生課題低下

遅延再生課題

MMSE・HDS-R：3単語の遅延再生



MCIを含む初期 AD 域の
近時記憶障害を評価するには不十分

5 物品の遅延再生課題



7分前後
干渉課題

?

再度想起

得点：想起できた物品に対し各 1 点（5 点満点）

5 物品の遅延再生課題は、初期 AD の軽度近時記憶障害を検出する上で有用か

1. 近時記憶障害の有無の cut off 得点を設定
2. 3 年以上追跡できた患者について MMSE と HDS-R の得点の変化と AD への移行を検討

1. cut off 得点の設定

対象：健常群 190（男 77，女 113）例

年 齢：69.9 ± 8.6歳（50～86歳）

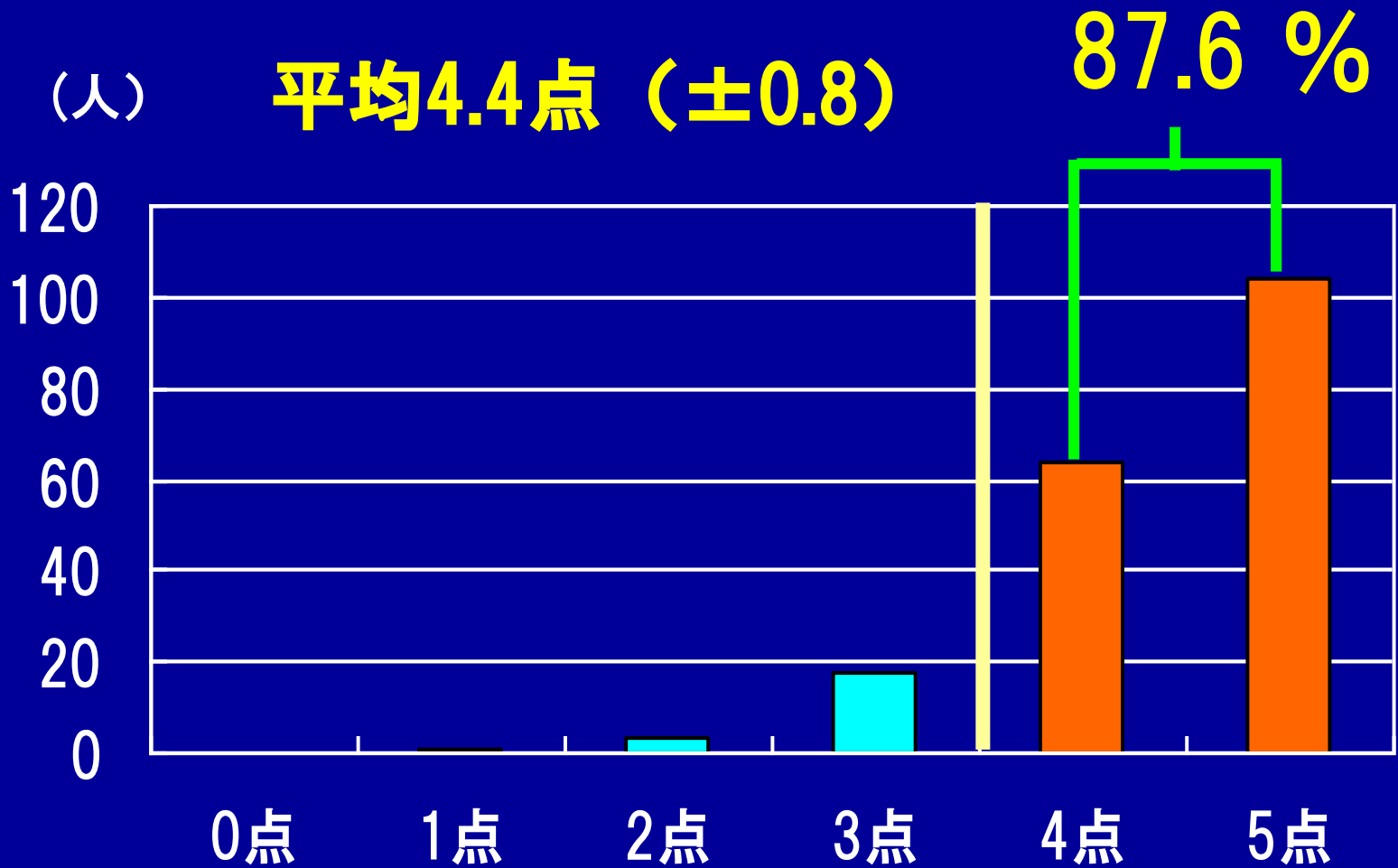
MMSE：24 点以上（平均 27.9 ± 2.1）

HDS-R：21 点以上（平均 27.6 ± 2.2）

方法：5 品の遅延再生課題における近時記憶障害の有無の cut off 得点を健常群の得点分布より検討

5 物品の遅延再生課題における得点分布

布



➡ 近時記憶障害あり cut off 得点：3点以下

2. 追跡患者の検討

対象：AD 疑い群29 (男10、女19) 例

平均年齢：71.6±4.6 (63～79歳)

検査条件：MMSE24点以上 (初回 25.8±1.7)

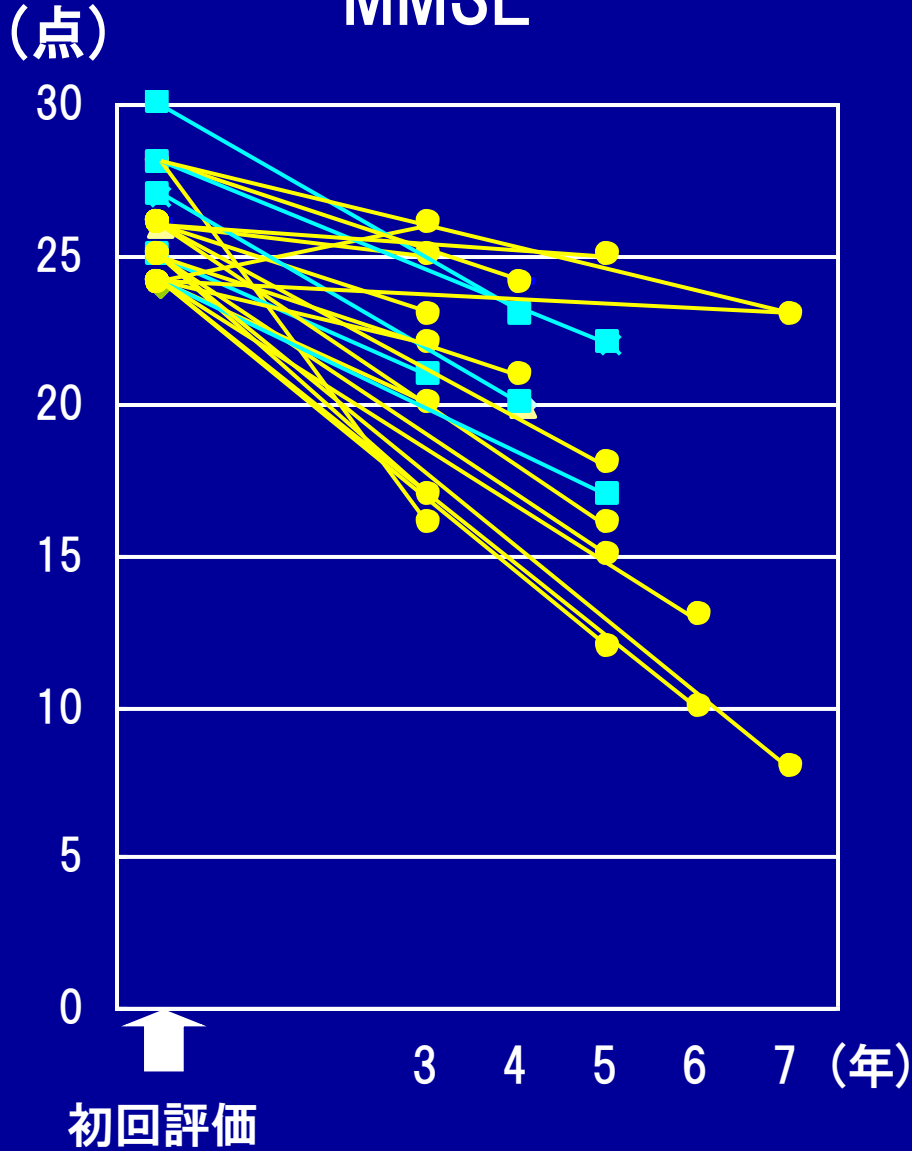
HDS-R21点以上 (初回 27.0±4.6)

5 物品の遅延再生課題が 3 点以下

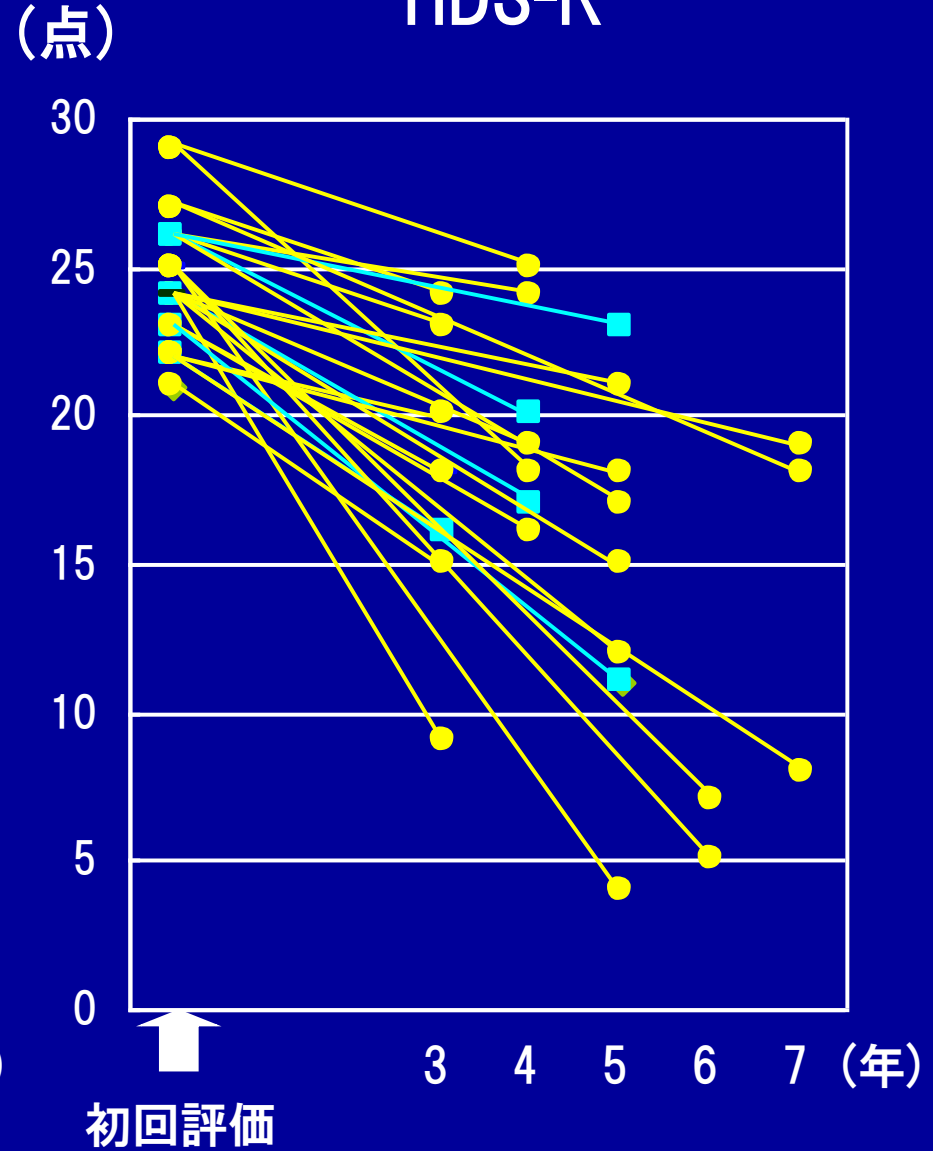
方法：MMSE と HDS-R の得点の変化と，AD への
移行の有無について検討

●—● ADに進行した患者

MMSE



HDS-R



■ 29例中, 24例 (82.8%) が AD に進行

以上の研究より...

1. 一般的な認知機能検査の成績が正常でも、
5 物品の遅延再生課題が 3 点以下の者は
MCI を含む初期 AD の可能性が高い。
2. 5 物品の遅延再生課題は、簡便ながら、初期
AD に特徴的な軽度近時記憶障害の検出に
有用である。

5 物品の遅延再生課題



7分前後
干渉課題

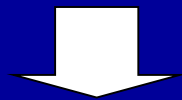
?

再度想起

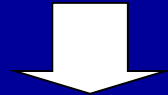
- 3 点以下の者は，初期ADの可能性が高い
- 簡便ながら，軽度近時記憶障害の検出に有用

MCI に対する対応

5 物品の遅延再生課題を含む認知機能検査により、MCI の疑いのある患者に対して...



MCI について、利用者や家族に説明



認知症発症の予防の指導

MCI に対する対応

～認知症の発症・進行の予防に対する指導～

生活習慣へのアドバイス

1. 食事（緑黄色野菜や魚の摂取）
2. 有酸素運動（1日 20 分程度の散歩など）
3. 知的活動の習慣化
4. 社会的交流
5. 短時間の昼寝（30 分程度）

まとめ

- 5 物品の遅延再生課題を含む認知機能検査の実施により，MCIの疑いのある利用者に対し，認知症予防のアドバイスをすることが
できる
- 長期に渡り訪問リハを継続している場合，定期的に評価を行うことで，認知症の進行の程度を確認しフォローすることができる